

検査・手術説明書 がんけんないはんしょう (眼瞼内反症手術)

ID :
氏名 : 様
生年月日 :

1. 病名・病状

病名：眼瞼内反症

眼瞼内反症とは、まぶたが眼球側に折れ返り、睫毛（まつげ）や皮膚が眼球にこすれて角膜（黒目の表面）や結膜（白目にある膜）に障害を生じる病気です。角膜や結膜の障害が強いと、目の違和感や不快感が出現し、さらに進むと視力障害の原因にもなります。

2. 手術の内容

まぶたの向きを正常に戻して、睫毛が角膜や結膜に当たらないようにするために手術をします。手術は、局所麻酔で行います。

皮膚が余って生じる内反症では余っている皮膚を切除します。また、皮膚の奥にある腱膜が緩んでいることも多いため、緩んでいる腱膜を縫合することにより、内側に傾いたまぶたを正しい方向に位置調整します。

手術の傷は、しわと同じ方向に作るため目立ちませんが、よく見るとわかります。

手術後1週間位はまぶたが腫れたり赤みがでますが、経過と共にひきます。

手術後、正しい向きに調整されていても、組織を縫い合わせることで調整されているため、時間の経過と共にゆるみ、再発することがあります。その際には、再度手術が必要になることがあります。また、睫毛乱生（逆さまつげの一種）を合併している場合には、内反症の手術をしても症状が残ることがあります。

3. 麻酔の方法・内容

局所麻酔で行います。まぶたの皮膚に針をさす時、少し痛みがあります。

まれに麻酔薬にアレルギーを起こす方がおられます。歯科での麻酔の際などにアレルギーを起こしたことがある方は事前にお知らせください。

4. 手術の必要性と手術をしない場合の経過・予後

根本的な原因が除去されない限り治ることはありませんが、角膜や結膜の障害が軽度であれば、点眼や眼軟膏を用いながら我慢して様子を見ることもできます。

5. 手術自体の危険性・合併症

調整が強すぎ、まぶたが逆に外側へ向く（外反）ことがあります。外反になると、ドライアイ（乾き目）を合併することがあり、角膜が損傷することがあります。その場合は、程度をみて再度調整のための手術をすることもあります。逆に調整がゆるいと、内反が残る場合があります。抗生物質の点眼や軟膏にて傷口からの感染症を予防しておりますが、手術後に創部からの感染を伴うことがあります。感染症が起こった場合は抗生物質により対応します。

6. 同意を撤回される場合について

同意された場合でも、実施までの間はいつでも撤回することができます。
また、その医療が継続して行われる場合にも、やめることができますが、
やめることの影響について主担当医から十分な説明を受けた上でご判断をお願いいたします。

7. セカンドオピニオンについて

治療方針を決める上で主担当医以外の意見をお聞きになりたい方は、必要な資料や
検査結果を用意しますので遠慮なくご相談ください。

ご不明な点がございましたら担当医師までお問い合わせください。

連絡先：河北サテライトクリニック 眼科 （代）03-3339-0808